

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員個々が理念を認識しスタッフルームと内玄関に掲示してある。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員は理念にかかげた内容が実践できているか朝礼時に話し合っている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族や、面会の方また、ボランティアの方が来られた時にお話などをさせてもらって理解をしてもらえるようにしている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の魚屋さんへ入居者さんと一緒に行ったりまた、隣近所の人に会えば気軽にいつでも立ち寄ってもらえるように声かけしている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で夏祭りなどあれば参加している。また、老人会との交流もできボランティアなどに(踊りや歌)来てもらっている。老人会で空き缶、段ボールを集め活動の資金にしているとの事でお手伝いをさせてもらっている。	○ 来てもらうばかりでなく、花見の季節などは地域の人たちと一緒にできればな、と思っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホームの入居者さんのみの支援で地域の高齢者の方への暮らしについて話し合ったことがない。	○	地区の民生委員や老人会の代表の方と地域の高齢者の方の暮らしぶりを聞いて何か役立つことがあれば参加していきたいと思っている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年できていなかった所の評価を活かして改善に取り組んでいる。	○	まだ十分でない、できていないところもあるのでこれから改善に向けて取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見などを取り入れてサービス向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に毎回出席してもらっている。また、解らないところがあれば直接市町村に出向き相談に乗ってもらっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用している方がいるが、職員にまだ理解できていない人もいるのでこれから話し合っていきたい。	○	県社会福祉協議会にて毎月1回の学習会に交代で参加してもらって成年後見人制度を勉強し、理解を深めていってもらうよう計画している。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間どうしが、身体的暴力や言葉の暴力などがないようお互い注意し合っている。	○	身体拘束について勉強会ができていないので取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> <p>入居時契約を結ぶ時に書面にて説明している。</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>利用者さんからの苦情があれば可能なことはできるだけ反映させている。</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> <p>毎月発行しているホーム便りに入居者の方の近況や行事や外出の写真を添えて送付はしている。また、個々に合わせその都度連絡をしている。職員の異動(退職など)もホーム便りと一緒に報告している。</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>玄関に御意見箱を設置している。また、面会時などに気軽に話ができるような雰囲気づくりをしている。また、不満や苦情の連絡先を玄関にポスター等貼りわかるようにしている。</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> <p>運営者は法人の「合同会議」を開催し、運営に関する意見や提案を聴く機会を設け反映させている。</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> <p>夜間は夜勤者が1名しかいない為、夜間の入浴はできていない。日中の入浴は午前と午後本人の希望を聞いて入浴している。管理者は柔軟な対応ができるようシフトの人数には入れていない。夜間対応や利用者の状態に応じた体制が取れている。病院受診等の対応や受診時に付き添って行っている。夜間休日の呼び出しがあれば対応している。</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> <p>行事や外出時など各ユニット合同で参加したりでかけたりしてできるだけ関わりを持ち、又、ユニットごとの交流を持っている。(職員の法人間での異動はない。)</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	外部研修を積極的に職員が受ける事ができるよう取り組んでいる。	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	管理者は地域の同業者と交流もあり、お互いの情報交換を行っており相互訪問などに取り組んでいる。	○ 管理者だけでなく職員も同業者との交流を持ち相互訪問しネットワークづくりや勉強会などに取り組んでいきたいと思っている。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	職場のストレスや相談などに乗ってくれ、適切なアドバイスをしてくれる。	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	運営者は個々の努力や実績、勤務状況を把握し向上心や意欲を持って働けるように配慮している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	本人からの聞き取り困難な場合はご家族からの情報を得て、また、本人が訴えられる時はよく受け止め話を聞いて不安を取り除く努力をしている。	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	契約時にお話を聞いているが面会などにおいでた時も困り事や希望する事、不安に思っていることはないかお聞きしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族からの相談がある時はその時に必要に応じて対応をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	希望があれば入居前に本人やご家族に見学などをしてもらっている。また、すぐに利用となる場合は本人が落ち着くまで家族に面会に来てもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	季節の行事や習わしについて職員が入居者に教えてもらったり、各自の習慣、持てる力を日常の中に取り組み共に役割分担することで支え合う関係を築いている。初詣、節分、ひなまつり、鯉のぼり、七夕、お月見、クリスマス会など年行事を積極的に行っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族がホームでの行事に参加、協力してもらってともに楽しめるよう機会を作り実施している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	各家庭の事情を把握しそれに応じた柔軟な配慮を行っている。また居心地のいい雰囲気を作り関係再構築の支援を行っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人が面会に来れば、来てくれた人には時々来てもらえるように声かけを行っている。入居者が希望すれば行きたい場所への訪問支援も行っている。個々の希望を日常的に聞き取り把握に努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者さん同士と一緒に生活していく仲間として理解し協力し支え合っていけるように支援を行っている。孤立しがちな入居者さんにはすすんで声かけし他の入居者さんとかかわる機会を設ける配慮をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院した時など職員がお見舞いなどに行き、利用者さんや家族との関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりと個々に対話をして希望や意向の把握に努めている。困難な場合は家族などに聞き、本人本意で支援している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴、性格、希望などの聞き取りをし、現時点での課題及び心身状態の把握に努めている。入居事前調査や本人または家族の方から情報の聞き取りを実施している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりのできる事・できない事・理解力など考えていく。できる事を理解し心身の状態など日常生活の中から把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の聞き取り困難時はご家族等から話を聞くようにしている。また、職員からの意見も反映した計画を立てている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回見直しをしている。変化が生じた時は家族などと相談している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤、夜勤を通じて毎日一人ひとりの気づきや変化を個々に記録をし実践やカンファレンスを活かしている。個別記録を活用することにより本人の状態の変化を継続的に見ることができし、また、介護の手がかりを得られることがある。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人やご家族のその時々々の要望に応じて柔軟な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議参加メンバーをはじめ、地域の老人会の人、ボランティア等に來てもらっている。	○	運営推進会議参加メンバーにまだ警察や消防署の方に参加してもらっていないので参加を働きかけてグループホームの運営にも支援をお願いしたいと思っている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	毎月1回隣接するデイサービスのボランティアの方による行事に参加している。(顔なじみの方や知人がデイサービスを利用していてお話などをされている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見人制度を利用されている方がおられ地域の社会福祉協議会と協働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望するかかりつけ医となっている。受診や通院の付き添いは職員が同行している。必要に応じて家族にも同行してもらっている。利用契約時に説明し、同意してもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医や主治医からの紹介で専門医や認知症に詳しい医師にいつでも受診できるようにしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員がいない時間は介護記録をもとに申し送り、確実な連携を行っている。適切な助言を得ている。職員と看護職とは気軽に相談できる関係である。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者さんが入院した時は医師や医療スタッフに本人の情報を提供している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時にご家族の方と終末期の在り方についてお聞きしているが長期入居されている方については随時話をしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	いつでも相談が可能で緊急時には隣接している協力病院が24時間対応してくれる。週1回主治医の訪問診療を行っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退居時(自宅以外)は移転先を見学してもらったりしている。また、移転先には十分な情報提供を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は常に入居者一人ひとり人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねることのないよう配慮している。常に人生の先輩であると尊敬の心を持って言葉かけや対応を行っている。子どもにしゃべるような言葉かけはしない。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員の一方通行にならないよう入居者の感情を引き出す工夫を心がけ言葉かけや雰囲気づくりに努めている。一人ひとりに合わせたコミュニケーション、スキンシップなどを心がけている。(十分に話を聞く、顔を見て話す、解りやすい言葉)	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が自由に自分のペースで生活できるよう努力・工夫し柔軟に対応している。	○ 入居者優先といっても共同生活の場なので入居者全員と優先というわけにもいかないものでどっちつかずの時もある。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	一人ひとりの個性を大切に整髪、衣服など希望の好みを選べるよう支援している。(外出時や入浴後に着る服など)入居以前からなじみの美容院に出かけています。本人の希望を尊重するよう努めている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い出しと一緒に外出したり食事準備や献立を考えるなど日々の食事が楽しいものとなるよう工夫しています。職員も会話を楽しみながら同じ場所で食べるようにしています。	○ 献立には旬の食材や昔懐かしい料理を取り入れ盛り付けにも工夫を凝らし見た目にも食欲がわくよう努力している。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒が好きな人には晩酌を飲んでもらっている。たばこも吸いたい人には職員の見守りの中で喫煙しています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンを把握し、一人ひとりにあった排泄支援を行っている。可能な人にはトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。排泄パターンを把握することで定期的にトイレ誘導や紙パンツ使用者には用途、時間帯によって使い分けを行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は隔日であるが午前か午後かは本人の意向に添えるよう配慮している。毎日入浴したい人は入ってもらっている。男性職員が嫌な人は同性職員で対応している。入浴拒否の人はタイミングを見計らって言葉かけをしているが、それで拒否する人はチームプレイ等で対応している。それでも拒否する人には家族の方にも協力してもらっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠のパターンを把握し、個々の1日の生活のリズム作りを意識的に行き安定した眠りが取れるよう支援している。希望により湯たんぽも使用している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	できる人には掃除、シーツ交換、交換後のシーツの整理を職員と一緒にやっている。また、食事の準備や後片付けなども一緒にした後、感謝の気持ちを伝え満足感と達成感を味わえるよう配慮している。散歩や買い物、喫茶店でのお茶会などで気分転換を図っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望すれば管理可能な人はお金を所持したり使えるように支援している。(お小遣い程度)金銭管理困難な場合は事務所預かりで個別に管理している。家族が情報を求めた場合はいつでも情報公開している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者が行きたい場所があれば訪問が実現するよう取り組んでいます。一人ひとり希望を聞き把握するよう努力しています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段の外出とは別に地域主催の行事や催しなど体調や希望に合わせて外出できる機会を増やすよう努力する。	○	利用者さんと家族の方が一緒に行く機会をもう少し増やしていきたいと思っているがなかなか協力してもらえないところもある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すれば、電話など自由にできるように支援している。	○	希望者には手紙や暑中見舞いや年賀状などを出す(家族や知人に)ための支援に取り組んでいきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や馴染みの人の訪問時は居心地良く過ごせる雰囲気作りを心がけている。居室や共用スペース(ホール)など、自由に気兼ねなく過ごせるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に向けて研修も実施し禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者個々の自由と人権を守る為できるだけ鍵をかけない工夫をしているが最低の安全を守る為の施錠はしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼間はホールにて記録したり日常会話の中で見守りをしているが夜間は2時間ごとの巡視を行って安全を確認している。また、モニターも併用しトイレの前などに立っているときはすぐ対応している。(2F)		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬はスタッフルームで管理、また洗剤や刃物などは1日の業務が終われば鍵をかけられるところに片づけている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒のリスクのある人は常時歩行時などに注意し、必要時は一部介助などを行っている。また、入浴時に1人で介助するのが困難な人は必ず2人で行っている。誤薬のないように服薬介助時には必ず名前を確認し服薬介助している。事故発生時に、事故報告書を作成し市役所に報告している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署での救急処置講習に全員参加し、研修を受けている。	○	講習の後、施設での研修が毎月行えていないので定期的に行ってきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	施設で年2回防火訓練や避難訓練を行っている。	○	職員だけで行っているので地域の人にも協力を得られるよう働きかけていきたいと思っている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時に考えられるリスクは説明している。(外出なども含めて)		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行っている。日々の生活の中で少しの変化でもあれば医療機関と相談しながら早めの受診を行うよう取り組んでいる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者個々の薬の説明書をカルテにはさんで職員が把握できるようにしている。また、状態変化時は主治医に相談をし、内服の変更などをしてもらっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	運動や水分も適度に取できるだけ自立排便に努めている。また、繊維質の多い野菜等を多く取り入れた献立をたてている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後全員歯磨きや義歯の洗浄を見守りや声かけ、一部介助、全介助、個々に合わせた口腔ケアを行っている。前回はできていなかったが口腔ケアの大切さを職員が認識しすぐに改善をした。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事量や習慣に応じた食事を提供している。栄養バランスについては協力病院の栄養士に相談しながら献立をたてている。水分は毎食時午前午後、おやつの時間や就寝前などに補給している。入浴後も水分補給をしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染時マニュアルがあり、感染があった場合感染の拡大を予防するため対策を周知徹底して実施している。トイレの後の手洗いの周知や手洗いの方法の周知、食品を扱う際の手洗いの周知。汚染された物に触れる時には必ず使い捨ての手袋を使用し手袋を廃棄する際にも廃棄の仕方を周知している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器やまな板、調理器具など使用したものは洗浄後必ず乾燥機にかけている。また、生魚や生肉などを調理したまな板は熱湯で洗った後、次亜塩にひたしている。冷蔵庫内の食品の使用期限のチェックを行っている。ふきん、まな板、包丁は毎日ハイターにつけ消毒している。冷蔵庫は定期的に清拭している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関横の花壇に四季折々の花を植えたりしている。安心して出入りができるように入口横にインターホンを備え付けて、ホールにいてもすぐわかるようになっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事の準備中や、食後、利用者さんがくつろいでいるとき、職員だけで話をしたりしないように配慮している。七夕やお正月の飾りやクリスマスツリー、お雛様などで季節感を取り入れている。	○	行事などの準備をする時は職員だけでなくできる限り入居者さんも参加してもらって季節感を感じてもらえるようにする。(七夕、クリスマス、お正月、お誕生会など)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	喫煙希望者は他の利用者さんと一緒にならないようにスタッフルームで(火災予防の為)職員と話をしながら喫煙している。利用者同士も喫煙しながらよく話をしたりしている。また、仲のいい利用者さん同士が居室で話ができるように配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたものを本人が希望すれば持ってきてもらっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日の掃除の中で天気のいい日は天窓をあけ、換気をしている。また、冷暖房時には個々にあわせ温度調節を行っている。強い日差しにはカーテンなどで調節している。トイレのにおいなどは換気扇を24時間回し、消臭剤を利用者さんの手の届かないところに置いている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、又、浴室やトイレ等随所に手すりを設置しており安全面で工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	失敗や混乱がある時はなじみの職員による傾聴を行い、寄り添って精神面の安定を図っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前に花壇があり季節折々の花を植え、水やり等をしている。また、外回りには季節ごとに楽しめるようなスペースがあり、春には桜、秋には落ち葉拾い等が楽しめる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

まだ十分ではないが、地域の老人会との交流ができ、ボランティアに来てもらったりクリスマス会などにも来てもらっている。グループホームの入居者さん達との関わりや触れ合いを通して認知症についての理解を深めていってもらえるように努めている。